

通知サービスでは、速やかに避難が必要とされる警戒レベル4に相当する**非常に危険**が出現したとき等に原則として市町村単位で通知されます。

通知を受信したときには、市からの避難勧告等を確認するとともに、避難勧告等が発令されていなくても、市内のどこで危険度が高まっているかを「大雨・洪水警報の危険度分布」の地図や河川の水位情報等で確認するようお願いします。



危険度分布で**極めて危険**となってしまうと、道路の冠水等で避難が困難な状況となるおそれがあるため、遅くとも**非常に危険**が出現した時点で、速やかに避難の判断をすることが重要です。

また、避難に当たっては、あらかじめ指定された避難場所へ避難することにこだわらず、友人や知人、親戚の家、川や崖から少しでも離れた近くの頑丈の建物の上層部に避難するなど自らの判断でその時点での最善の安全確保行動を取るようお願いします。

通知サービスの利用には、協力事業者のスマートフォンアプリのインストール又はメール登録が必要です。詳しくは、気象庁ホームページをご確認ください。

- 気象庁ホームページ <https://www.jma.go.jp/jp/heavyrain/index.html>
- 通知サービスに関する問合せ先 静岡地方気象台 ☎054-286-3521



避難所利用に際してのお願い

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、指定避難所等へ避難される場合は、食料や毛布、スリッパ等の自身や家族で使用する身の回り品を持参していただくことに加え、マスクの着用、アルコール消毒液や体温計等の持参、手洗いの徹底や三密を避けるなど、感染症拡大防止策へのご理解とご協力をお願いします。



防災かわら版

問合せ先 防災安全課防災係 (窓口⑩) ☎36 4 1 4 5



9月1日は防災の日です

国では、台風・高潮・津波・地震等の災害への認識を深め、災害対処の心構えをするため、毎年9月1日を「防災の日」、その日を含む1週間を「防災週間」として定めています。

気象庁の気象統計情報によると、台風の接近・上陸は8月から9月にかけて多く、1959年9月には、5,000人を超える死者・行方不明者を出した伊勢湾台風が襲来しました。また、1923年9月1日には、10万人以上の死者・行方不明者を出した関東大震災も発生しています。

この機会に改めて身の回りの備蓄品の確認やハザードマップを活用して、防災について考えてみましょう。

大雨・洪水警報の「危険度分布」通知サービスが始まりました

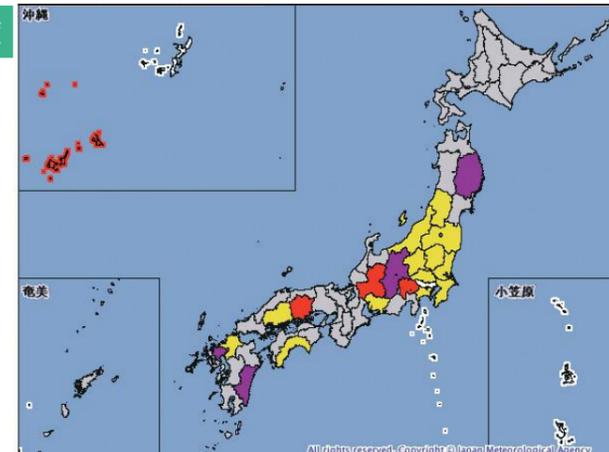
気象庁では、8月5日から土砂災害や洪水災害からの自主避難の判断に役立てるための「大雨・洪水警報の危険度分布」について、危険度が高まったときに協力事業者からメールやスマートフォンアプリでお知らせするプッシュ型の通知サービスを開始しました。

大雨・洪水警報の危険度分布とは？

「土砂災害」「浸水害」「洪水災害」が、どこで、どのレベルの危険として迫っているかを色分けし、一目で危険度がわかるようにしたサービスです。

警戒レベル	とるべき行動	警報等	危険度分布
5	命を守るための最善の行動	災害発生情報 氾濫発生情報	極めて危険
4	速やかに避難	土砂災害 警戒情報	極めて危険 非常に危険
3	高齢者等は速やかに避難	大雨警報 洪水警報	警報 (警報級)
2	ハザードマップ等で避難行動を確認	大雨注意報 洪水注意報	注意 (注意報級)
1	災害への心構えを高める	早期注意情報	

大雨危険度



各種防災気象情報をまとめて地図表示